

製品名: H 因子 (19Y10) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe10782**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	139kDa

抗原情報

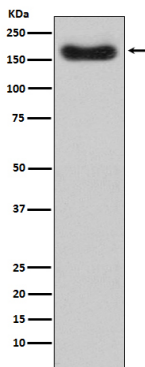
遺伝子名	CFH
別名	AHUS1; AMBP1; ARMD4; ARMS1; beta1H; CFH; CFHL3; complement factor H, isoform b; Factor H; factor H like 1; FHL1; HF1; HF2; HUS;
遺伝子 ID	3075.0
SwissProt ID	P08603
免疫原	ヒト H 因子の合成ペプチド

背景

H 因子は、第 I 因子による C3b の不活性化における補因子として機能し、補体代替経路における C3bBb 複合体 (C3 転換酵素) と (C3b) NBB 複合体 (C5 転換酵素) の解離速度を上昇させます。補体活性化を調節することで、バランスの取れた免疫応答の維持に重要な役割を果たす糖タンパク質です。可溶性補体阻害剤として作用し、グリカン構造などの自己マーカーに結合して補体の活性化と細胞表面での増幅を阻害します (PubMed:21285368、PubMed:25402769)。補体代替経路 (AP) C3 転換酵素 C3bBb の減衰を促進し、補体増幅ループの中心的役割を担う C3b の局所的な形成を阻害します (PubMed:19503104)。セリンプロテアーゼ因子 I の補因子として、CFH は既に沈着している C3b のタンパク質分解も制御します (PubMed:18252712、PubMed:28671664)。さらに、特定の受容体との相互作用を通じて、いくつかの細胞応答を媒介します。例えば、CR3/ITGAM 受容体と相互作用することで、ヒト好中球が様々な病原体と接着することを媒介します。その結果、これらの病原体は貪食され、破壊されます (PubMed:9558116、PubMed:20008295)。

研究分野

画像データ



ヒト血漿溶解物中の因子 H 発現のウェスタン ブロット分析。